

様式第4号(第5条関係)

政務活動費収支報告書

令和6年4月3日

(あて先)山鹿市議会議長

議員名 永 田 紘 二



山鹿市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第5条の規定により、次のとおり報告します。

1 収入(政務活動費)額 240,000 円

2 支出

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	109,420	3/26宮城県柴田郡村田町視察研究
研 修 費	87,400	6/26市議会議員研修、10/1第17回鞠智城東京シンポジウム、10/2気象科学館研修
広 報 費	0	
広 聴 費	0	
要請・陳情活動費	0	
会 議 費	0	
資 料 作 成 費	0	
資 料 購 入 費	62,760	新聞(熊日、農業、赤旗)
人 件 費	0	
事 務 所 費	12,000	タブレット通信費
合 計	271,580	

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

3 残額 金 0円

(支出額が収入額を超えるときは、0円と記入)

令和5年度 政務活動費（研修費・研究費） 実績報告書

氏名	永田 紘二
研修（視察） 日程	1 宮城県柴田郡村田町村田迫 6 番地
研修（視察） 内容	1 有害鳥獣減容化施設活用について
交通手段	飛行機・自家用車 その他（レンタカー）
研修内容	村田町農林課鈴木統括主査 高橋主査・吉野主査より 有害鳥獣減容化施設の概要について説明をうけ、なお現地研修もした。 ○捕獲した有害鳥獣は埋設処理していたが、捕獲頭数の増加に伴い、埋設作業の負担が課題となっていたため、国庫交付金を活用して減容化処理施設を整備 ○鳥獣被害対策実施隊等が捕獲した有害鳥獣を施設に搬入し、処理装置へ投入する。投入された個体は、装置により減容化。 ○施設の整備により、埋設作業に係る捕獲従業者の負担が軽減 施設の概要 処理方法 生物処理による減容（装置式） 所在地 宮城県柴田郡村田町 運営主体 村田町農作物有害鳥獣対策協議会 主要設備 減容化処理装置1基、クレーン、重量測定器 等 (重量測定器のみ単費) 対象鳥獣 イノシシ 処理能力 約420頭/年 初期費用 事業費3.683万円 国庫交付金 1.707万円（他補助金活用により持ち出し400万位） ランニングコスト 約130万円/年 《施設の特徴》 ・減容化処理装置による自動処理 ・重量測定器による正確な体重管理 イノシシ捕獲数量の推移は H30 383頭 R01. 515頭 R02. 571頭 R03. 466頭

まとめ

本市では、有害鳥獣駆除捕獲の依頼を、県猟友会山鹿支部に依頼をしている。R4年度実績、イノシシ・鹿で2,472頭の捕獲実績となっております。本市の猟友会員も高齢化（153名で平均年齢67歳 70歳以上が87名）となっており、捕獲後の処分（埋設）に、捕獲者の大きな負担となっている為、イノシシ肉処理加工施設の検討をお願いをし、検討をされてきたが、経営が非常に困難で進んでいませんが、今回の微生物分解減容化処理については、設置費用やランニングコストが非常に少なくすみ、オガクズの処理のみですむ。早急の取組の検討を望む。

まとめ

領 収 証

No. J 093098

R6 年 3 月 19 日

永田 紘二 様

税込金額	
10%	
8%	
消費税額等	
10%	
8%	

金額	¥	1	0	7	5	5	0
----	---	---	---	---	---	---	---

但し 3/26~27 仙台2日間 いちい - 利用旅費
(うち消費税額等 円)
上記の金額正に領収いたしました

収 入
印 紙

登録番号 T3330005003177

熊本県山鹿市鹿央町持松159番地1

鹿本 農業協同組合
代表理事組合長 西岡裕治

JA鹿本旅行センター

担当部署

取扱者



JA鹿本

CAP

2024年 3月25日

領 収 書

一連No277714

領収No000002

永 田 紘 二 様

¥1,870-

(但し として
正に領収致しました)

西 益 屋

熊本県山鹿市中央通201

TEL 0968-44-3160

登録番号:T1330003002182

印刷面を内側に折って保管願います



支 払 証 明 書

令和5年6月26日

永 田 紘 二 様

金額 3,000 円也

件名 令和5年度山鹿市議会研修会講師謝金

支払先（者）

熊本大学法学部教授

伊藤 洋典 様

上記のとおり確かに支払いました。

山鹿市議会事務局局長 小 山



令和5年度 政務活動費（研修）実績報告書

氏名	永田 紘二
研修日程	令和5年9月30日（土） ～令和5年10月2日（月）
研修先	1.東京都千代田区神田 明治大学アカデミーホール 2.東京都港区虎ノ門 気象庁2F 気象科学館
研修内容	1.第17回鞠智城東京シンポジウムについて 2.現在の気象や地震の観測機器及び観測体制と防災知識の習得
交通手段	飛行機・JR・モノレール・東京メトロ
1.鞠智城シンポジウム R5年10月1日 12:30～18:00	<シンポジウムテーマ> 渡来系技術と古代山城・鞠智城－渡来文化の重要性－ 報告① 鞠智城に残る渡来系技術 長谷部 善一 歴史公園鞠智城・温故知新創成館館長代表 報告② 弥生時代の渡来系技術の実像 石川 日出志 明治大学国際日本古代学研究クラスター代表 報告③ 古代山城にみる渡来系技術 亀田 修一 岡山理科大学特任教授 報告④鞠智城と朝鮮三国の山城 田中 俊明 滋賀県立大学名誉教授 パネルディスカッション コーディネーター： 佐藤 信（東京大学名誉教授/くまもと文学/歴史館長） パネラー： 長谷部善一・石川日出志・亀田修一・田中俊明 4名の発表者が古代山城の築城に関し、それぞれの研究を通して、鞠智城の築城時期、目的や時代背景について持論を発表。鞠智城が築かれた年代は7世紀後半で唐・新羅による国内への侵攻に対して直接対応する必要性が生じ、大和朝廷が大宰府を防衛する目的で大野城、基肄城を築き、これらの兵站基地と防衛施設を兼ねた城として亡命百済人が築城場所の選定・建設までを担当、つまり近畿以西の古代山城は弥生時代に朝鮮半島から渡来した土木技術により環濠集落を作る壕や土塁、水田造成などの土木技術を受け継ぐ渡来人系と地元の人々そして、7世紀後半に亡命してきた技術者によりもたらされた版築土塁の城壁、石材加工、石積技術などが上手く組み合わさった結果であることをそれぞれの視点で発表 パネラーたちは、朝鮮式山城に用いられている渡来文化や渡来系土木技術、出土品などの共通点を取り上げて百済の亡命貴族ら

	が築城に関わった可能性が高いと指摘。しかし百済以外の技術も認められる事から、すでに大陸から日本に渡ってきていた渡来人をルーツとする人々も築城に携わった結果、重層的な渡来文化を形成したのではないかの見方を示された
まとめ	今回の主な目的は県が主催し、文化庁や山鹿市、菊池市も後援する第17回鞠智城東京シンポジウムへの個人参加であったが会場には山鹿市、菊池市の自治体関係者の役職、個人名記載の来賓席が用意、来賓紹介も行われ、公務参加と同じ対応と、800名を超える一般参加者で驚きました。 私は初参加でしたが、今回のテーマである渡来系技術が縄文、弥生時代からの渡来人による技術継承が国内で行われ、百済滅亡により逃亡百済人がもたらした新しい土木技術と国内で継承されていた土木技術が有ったから鞠智城を含む古代山城が築けた事。鞠智城と同じ朝鮮式山城で記録があり、所在地が確認されてるのは6ヶ所しかなく、665年～667年頃の築城から975年頃までの約300年間も存続した古代山城は鞠智城だけで、その理由兵站基地であったことがその理由として、考えられることなど学びました。出土品の軒丸瓦や花崗岩に施された唐居敷、銅造菩薩立像など貴重な資料が見られ、今後の発掘調査や研究成果も待たれるが、史跡の保存、維持と歴史継承に加え、貴重な観光資源として熊本県、菊池市と協力として現在の国指定史跡の歴史公園から国営歴史公園になるための認知度向上活動の必要性を認識した。 ※今回のシンポジウムの開会にあたっては、本市関係者9名出席し、開会時には来賓として9名紹介されたが、閉会時には、2名しか残っていなかったのは、非常に残念であった。

2.気象科学館研修 2023/10/2 10:30~12:00	現在の気象や地震の観測機器及び観測体制と防災知識の研修 現在使用されている気象、地震観測機器の実物展示、大雨、地震発生後の防災知識をクイズ形式で学べる大型モニター画面装置などが揃っている施設で、子どもにも理解しやすいように出来ていて、平日であったが関東大震災から100年ということもあり多くの親子連れで賑わっていた。 展示物見学後、常駐の気象予報士に地震や津波の観測機と監視体制、発生後の緊急地震速報や津波警報の仕組み、大雨や台風時の情報の活用。 最近の異常気象や、特に線状降水帯に起因する集中豪雨による大規模災害の発生（洪水、浸水、土砂、防風）が県内や隣接地域に大きな被害をもたらし、当市でも農地や道路等に被害が発生している。大雨や台風時には細やかな情報が各種媒体を通して発表されるが、私たちはそれを見聞きしてどの様に判断行動すべきかを知るために話を聞いた。
まとめ	災害から命を守る情報の発信（提供）だけでなく、国民の生活を支援するために暮らしに欠かせない天気予報や交通安全のための情報を発表。この気象庁が発表する様々な防災情報が、地震や津波、台風や火山噴火による被害を軽減し、国民の生命や財産を守る大きな要因であると再認識した。

No. J 088880

永田紘二 様

R5年9月7日

收入
印紙

金額

4 8 4 4 0 0

但し 9/30~10/2 航空 150,007円と17
(うち消費税額等 円)
上記の金額正に領収いたしました

取扱者



熊本県山鹿市鹿央町持松159番地1

鹿本農業協同組合
代表理事組合長 西岡裕治

担当部署

JA鹿本旅行センター

CAP

領 収 証

永田 紘二

様

No. _____

★

¥ 43,200 -

内 訳

現金

小切手

手 形

軽減税率対象

消費税額等(8%) 7,200

但 令和5年4月~令和6年3月分 新聞代
令和6年 3 月 28 日 上記正に領収いたしました

登録番号:T6330001026278

〒861-0331 山鹿市鹿本町来民1759-4

株式会社 さと山 社

代表取締役 前 田 良 博

TEL0968(46)2899 FAX0968(46)2031

収入印紙

コクヨ ウケ-98

領収書

令和6年3月22日

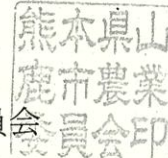
永 田 紘 二 様

¥ 8,400 -

但し、全国農業新聞代 令和5年4月~令和6年3月分

上記のとおり、領収いたしました

山鹿市農業委員会



永田 紘二

様

新聞・雑誌名

部数

金額

しんぶん赤旗 日曜版

2023年4月~2024年3月

12ヵ月分

日本共産党発行の

しんぶん 赤旗

領 収 書

11,160 - 円

1 年 0 月分

〒861-1306 上記の金額たしかにいただきました。
菊池市大字大琳寺85番地

TEL0968-25-5860 FAX25-5638

日本共産党北部地区委員会

領収日

投者



山鹿市 納付通知書兼領収証書

年度 令和 5年度	会計 1 現年度	繰越 21	款 6	項 1	目 1	節 1	細節	主管課 議会事務局
--------------	-------------	----------	--------	--------	--------	--------	----	--------------

住所 〒861-0382
熊本県山鹿市方保田
7 2 3 番地

氏名 永田 紘二 様



通知書番号 259692	調定番号 100002133	納付額 12,000 円
発行日 令和 6年 3月14日	摘要 タブレット端末通信費（令和 5 年度分）	

納入期限日

上記の金額を領収しました。

領 収 日 付 印

上記の金額を納付してください。

令和 6年 3月14日

山鹿市長

早田 順一



納 付 場 所

- ・山鹿市役所（本庁・市民センター）
- ・肥後銀行
- ・熊本銀行
- ・熊本第一信用金庫
- ・九州労働金庫
- ・鹿本農業協同組合



熊本県山鹿市

※この納付通知書兼領収証書は5年間大切に保管してください。（納 付 者 保 管）